

学習会 (子ども会) だより 10月号 後編
 MY SKY 第12号
 マイ スカイ
 1995年10月31日火曜日発行(毎月第2・第4土曜後の火曜日定期発行)

発行者
 板野中学校
 学習会
 編集・文責:吉誠社

2学期に入り慌^{あわ}ただしい毎日が続きましたが、ここにきて少し落ち着^{おち}いてきたのではないのでしょうか。とはいっても、3年生はいよいよという感じで、落ち着^{おち}いてもいられませんか。

さて、今回は先日行^{せんじつ}われました、交流学習会や板野中同研^{いたのちゅうどうけん}についてレポートしてみたいと思います。読みにくいかもしれませんが、じっくり読んでみてください!



◎第1回部落解放中学生交流学習会 (10月14日:板野町総合センターにて)

板野町総合センターに、計 150名もの中学生、学校の先生等を招^{まね}いて、第1回(謝辞に私第1回と名付^{なづ}けた)部落解放中学生交流学習会を開きました。この人数^{にんすう}は、予想以上^{じつ}の人数で、実は主催^{しゅざい}した私たちもビックリしたほどでした。板野郡内や鳴門市からはもちろん、県西部の三野^{みの}中学校や近藤一郎先生^{ひわき}がかわっていった県南の日和佐^{ひわき}中学校からの自主参加もあり、本当に盛^{せい}況^{きやう}な交流会となりました。

受付^{うけつけ}や司会進行^{あいさつ}、挨拶^{はようこく}、報告^{ほうこく}など、全てを中学生にやってもらったのですが、うまくいかないことがありながらも、本当に一生懸命^{しじょうめい}、しかも上手^{じょうず}にやりぬけていたと思います。

そんな生徒^{かんそうぶん}のみなさんの感想文^{かんさうぶん}を交^{まじ}えながら、以下^{した}に記^{しる}していきたいと思います。

1年生分散会^{ふんさんかい}で、ある中学校の女の子が「実は私は、一昨日^{おとつひ}になって初めて、自分が部落出身^{ぶらつしん}だということを知らされた……」と告^つげてくれました。その瞬間^{しんかん}どよめき^おが起^おきました。そしてそのことは、分散会^{ふんさんかい}にいた人々の心^{こころ}を動揺^{どうよう}させました。その発言^{はつげん}に板中生^{いたのせい}が続^ついていきます。まるで「これが現実^{げんじつ}だ!」とハンマー^{なぐ}で殴^{なぐ}られたような話し合^{はな}いでした……。

けど、それも「多くの仲間^{なかま}がいる!」ということ^{こと}を肌^{はだ}で感^{かん}じることができたから言^いえたのだと思うんです。仲間^{なかま}の存在^{そんざい}は、一人ひとり^{ひとり}の大きな力^{ちから}になっているんですね。

……分散会^{ふんさんかい}で他の学校の子^この意見^{いけん}を聞^きいていると、「一昨日^{おとつひ}自分が部落^{ぶらつ}だということを知^しった」ということを言^いっていた子がいて、私は自分が部落^{ぶらつ}と知^しったとき^{とき}のことを思^{おも}い出^だしました。

私を知ったときは、はっきり言ってあんまり辛くなかったです。多分、部落という形で差別を受けたことがなかったからだと思います。でも自分の先祖が、作られた差別で差別されていたなんて思うと、腹が立ちます。

けど、私は部落だからといって弱気になりたくありません。弱気になっていたら、誰に負けるのでもなく、部落に負けるのです。

私は交流会に行つて、たくさんの仲間がいることをあらためて実感できました。そしていろんな人の意見を聞いていると、自分にあてはまっていたり、そうじゃなかったり。でも、真剣に言っている人の目を見て「私も頑張らなくちゃ」と心から思いました。

交流会は、はっきり言って楽しくはなかったです。だけど、何か部落に関しての自分が前より強くなった気がします。そして、仲間がいるということもうれしいことと思いました。そして、部落という仕組みまれた壁にまるめられないように、自分から壊していけるようになりたいと思いました。

1年女子

中学生のみなさんがビックリしたこととして「各中学校の実状の違い」があげられると思います。その事について感想をよせてくれた生徒もいました。

交流会が始まって、各学校の学習会の紹介のときに驚いてしまいました。学習会の人数の構成が、全校生徒の約半分だったり、全員で30人だったりと実に様々で、それでいてみんな本当に頑張っているんだなと思いました。……略……

今日私が初めて発表できたことで、帰り道Tさんと話し合っていました。「いろいろあったけど、今日は二人とも頑張れたなー」って。私も正にその通りだと思いました。でも、ここで発表できたからといってどこでも発表できるっていうわけではないと思います。だけど、交流会で頑張れたということを中心にしっかり刻んでおきたいと思います。私にとっては、とても良い経験と思い出になったと思います。

2年女子

また、これからの課題の一つとして、司会を進めていくために、日頃から生徒たちだけで会を進めていくような学習も必要だということがわかってきました。それは、学級で行っているような学活のようなものだと思ってもらえると良いと思います。ということは、今の学習会の内容自体を全く考え直して、学活のような時間（他県では「子ども会活動」と言ってるのですが）を日頃から設け、子どもたちだけで話し合う習慣をつけておく必要があるということなのです。

……中には、自分が部落の人間だと知ったのは一昨日だという人もいました。きつ

とその人は、ここに来るのも凄く不安だったんじゃないかと思います。自分の気持ちを整理できずに来ていると思う。それなのに、私は無理矢理に人の意見ばかり聞き出そうとして、ちょっと反省しています。自分のことばかり考えて、他の人のことが見えてなかったと思う。県奨に行ったとき、司会の人は凄くうまく進めていたし、他の人もとても意見が言いやすそうでした。Nくんが凄くように、私ももっとうまくならないし、今までしゃべれなかった人がしゃべりなくなるような話し合いにしていきたいです。

この交流会で自分の意見は言えたけど、人の話はきちんと聞けてなかった気がします。もっと人の話がきちんと聞けるような人間になりたいです。

今度あるときは、もっと頑張りたいです。

1年女子

他にも、他の中学校の報告を聞いて、これからの学習会はどうしていったらいいのか、これからの自分はどうしていかなければいけないかということについて書いてくれている感想文がありました。

・・・ある中学校の報告で「大人の人と話します」というのを聞いて、板野中学校の学習会も大人の人と話し合う場をとつたらいいんじゃないかなと思った。どうしてかというと、その地域であった差別の現実、自分があってきた差別を語ってもらって、その事について意見を言ったり、自分の親を語ったりと、差別の現実をもっともっと深めていかなあかんと思うからです。

それと、今日思ったけど、先生に言われながらしよつたら部落差別はなくなると思う。自主的に頑張っていかななくてはいけないと思う。森口先生はこれまで目標をもって頑張ってきたから、今の先生があるんだと思う。だから僕は、自主的に、そして自分自身がどう思ってるかっていうことを語りたいと思いました。

2年男子

板野町内の先生の会で、学校での同和教育の進め方と、学習会のあり方を変えていく動きがあります。

学習会自体も、今までの教科学習一辺倒から、話し合いや自主活動を主とした取り組みに変えていくようになると思います。その中で、教科学習も自ら共に学ぼうとする意識へと変わっていくようになると思います。つまり、「学習会」を他県のような「解放子ども会」にしていこうというわけです。もうその意識を持っている生徒も、少なからずいるようです。変わっていこうとしている学習会の内容については、次号に詳しく載せますので、楽しみにしておいてください。イチローも言ってるけど「変わらなきゃ！」ですよ！

また、変わっていったのは1・2年生だけでなく、3年生もまだまだ変わりつつあるようです……。

……けど、去年の交流会よりましです。去年も交流会をしましたが、その時は2年生が一人、私だけしか参加していませんでした。だから、3年生がこれだけ来てくれるとは思いませんでした。ものすごく嬉しかったです。…… 3年女子

※

……3年の分散会では「今の学校生活で満足しているか」で始まった。この質問をして少し間があいたので、司会をしていた私がK中をあてると、K中のみんなは「満足している」と答えた。その後もマイクがみんなに回っていったけど、みんな「満足している」と言いました。私は「今の学校生活で、一部満足していない。なぜなら、部落問題学習とかになると、ダメになってしまう」と言った。その後も「本当にみんな満足しているんですか？」と質問をした。すると、K中の子が「本当につて言われたら違うかもしれん。少しは満足してない。部落問題学習しよったら、手紙書いたりうつむいたりして何も話し合いができてないけん、ほこが満足できてない」って言ってきて、「私は他の学校でもそういう子はおるんやなー」と思いました。時間が少なかったのであまり話し合いという話し合いはできなかつたけど、その話は全体会へと続いていきました。 3年女子

初めから部落差別に立ち向かう意識が強い人なんて、なかなかいません。まずは、一番身の回りにある学級はどうあるべきか。学年はどうあるべきか。学校はどうあるべきか。今暮らしている町はどうあるべきか。今の社会は本当はどうあるべきか。と考えていけば、今の自分はどうかと問いかけていけると思うんです。そうやっていった、今もなっている3年生を本当に嬉しく思うし、そのエネルギーを是非ともそのまま新しい進路へとつなげてほしいと思います。仲間の存在を知っている限り、くじけることはありません。

今回、参加中学校全てのみなさんが「自分の学校以外にも、多くの仲間がいるんだ！」と実感したと思います。そしてそのエネルギーは、きっとそれぞれの中でホツホツと燃えていることと思います。その小さな炎を大切にしながら、それぞれがそれぞれの場でできる限りのことを尽くし、また来年！あの場で語り合えればと思います。それまで板中生も、あまえることなく、進む道を見失うこともなく、部落解放・人間解放へ向かって、小さい小さいあゆみを、じっくりじっくり進めていこうではありませんか！



だい かいいたの ちゅうがっこうどうわきよういくけんきゅうたいかい わたし め み
◎第2回板野中学校同和教育研究大会「私の目を見て！」(10月17日：本校体育館にて)

さくねん ぜんしつ
昨年，全国同和教育研究大会が徳島で開かれたことを記念して行った，前日全体学習。

あの全体学習を第1回として，今回第2回板野中学校同和教育研究大会が，10月17日に本校体育館で開かれました。参加者は200名を超える人数となり，四国4県からはもちろん，福井県，兵庫県，大分県からも遠路はるばる参加していただきました。

しりょう ひしかたてつ
資料は，土方鉄さんの書かれた「被差別部落のたたかい」という本の中にある一部分の「私の目を見て！」を使ったわけですが，みなさんはあの資料を読んでどう感じましたか？
勝利について，愛子について，どう思いましたか？

じたい ほうこう
授業自体は，「仲間とは何か」「信じるとはどういうことか」という方向へ進んでいきましたね。もっともっと日頃の生活と照らし合わせて考えてみたかったという気もしますが，まあそれはそれでいいでしょう。

さて，みなさんは「仲間」についてどう考えますか？

ある2年生の男子が，生活ノートに，自分なりの考えを明快に書き記してくれましたので，ちょっと読んでみてください。

仲間って何なんだろう？仲間，仲間と言っているけど，本当は仲間ってものがどんなものなのか，僕にはわかっていない。

5・6時間目ずっと考えていたけど，結論が出なかった。全体学習が終わった後もKくんと一緒に「仲間って何だろう」って話し合っって，「仲間っていうんは何でも話せるやつのことでないん？」ってKくんは言ったけど，僕は何か違うような気がする。何でも話せるっていうんは，親友のことを言うような気がする。何か，分かりそうで分からなくて，胸がもやもやしていた。

家に帰ってお母さんと話をしして，ようやく分かった。仲間っていうんは，一つのことと一緒に歩いていっているやつのことをいうんだ。部落差別のことなら，それをなくそうと一緒に頑張っているやつのこと。別にそいつとは1回も話したことがなくても，部落差別をなくそうと同じように頑張っているっていうことで，気持ちが一緒だ。発表する子だけが仲間なんじゃない。発表しない子も何か考えているんだ。それが仲間なんじゃないかな。でも，そう言うって発表しない子がなんか安心してしまう。

「発表しなくても仲間なんだから，発表しなくてもいいな」と思ってしまう。そんな

ってダメだ。一緒に考えているからには、自分の意見を出して、仲間意識を深めていこうじゃないか！

2年男子

映画「学校」の最後で「幸せって、いったいなんだろう……」と話し合っていた場面が思い出されます。

「仲間って……」「信じるって……」すごく難しい問題なのかもしれません。けど、「仲間」ってということについては、何かぼんやりわかったような気がします。

じゃあ、「信じる」ってどういうことでしょう？

ここに一つ、興味深いお話があります。私の机に谷村新司さんと一緒に写っている写真があることを知っている人も多いと思いますが、あの写真を撮らせてもらったときに、「信じる」ということについて、彼はこう語ってくれました。

「……短い間だけ信じることは誰にもできると思います。けど、信じ抜くってことは、なかなかできるものではありませんよ。本当は、それが大切なんじゃないかな……」「信じ抜く」確かにその通りだと思います。信じ抜くことは、自分との闘いなんだと思います。人を疑ってしまう自分。人を信じられない自分。そんな自分を、どう克服していくか……。

そのためには、自分を頑張らせるしかないように思います。そしてその中で、生きる喜びを見つけていく。そして「仲間」っていう意味も、実感としてわかってくるのではないのでしょうか。私たちは今、そのまっただ中にいます。仲間を信じ抜く厳しさと、信じ抜くことの喜びを味わいながら、日々の生活をいきいきと過ごしていきたいと思います。

最後に、本大会のまとめに代えて、感想文を紹介しておこうと思います。

板野中の同和教育は、僕がこれまで受けてきた同和教育とは全く違います。僕が行っていた学校では、同和教育の教材を読んで終わりとか、映画を観て感想文を書いて終わり、というものだったので、自分の本音を討論し合うという板野中の同和教育は素晴らしいと思います。

特に、子どもたちの親との格闘については、考えさせられることが多いです。親の差別意識を変えていこうと頑張っている子どもたちの言葉を聞くと、自分も負けられないと思います。

また、自分のこれまでの生き方や考え方、人との接し方についても、生徒の討論を聞いていると考えさせられます。

全体学習の中で「部落差別をなくしていくためにはどうしたらいいかわからない」

という意見がありました。そこで悩むことが本当に大切だと思います。自分が差別しない心を持つことはもちろん、なぜ差別があるのか、差別をなくすにはどうすればよいのか、みんなが考えていかなければならないと思います。

消極的な子どもに対して班ノートなどを通して意見を汲み上げることも、とても大事なことだと思います。

板野中以外の学校でも、このような取り組みが行われれば本当にいいと思います。これからも部落解放・人間解放のために共に頑張りましょう。 徳島大学解放研

※

今日は本当に素晴らしい子どもたちと出会えました。

私にも中学時代、板野中の子とは比べものにならないことかもしれないけれど、先生の質問や友の質問から「自分を語りたい。みんなの前であの子もがんばっとんやけん、私も何か言わなあかん」となんべんも心の中で闘った結果、言えなかったことがあった。でも充分心の中が熱くなって、心がぐーんと大きく広がったことを覚えている。今までの板野中で全体学習のおり、言えなかった子に私は言いたいです。「君たちの心は私（一教師）なんかよりずっと大きくなったよ。この次頑張りよ。今日言えんかって心の中は、今までの君と絶対ちやうよ」って。

私も君たちからいただいた言葉では言い表せないものを、今の私の周りに生きる子どもたちや教師と語り合っています。今日は本当にありがとう。 県内中学校教員

※

今日はありがとうございました。

阿南一中の2年生11人と共に参加し、阿南一中も板野中の生徒に負けられないように自分のことを語り合える集団にしたいと思いました。生徒たちも、自分たちと同じ中学生が考えて言っていることに、驚きを隠せないようです。

阿南一中でも、この11月に人権集会を学年で持つことになっています。その時に、少しでも差別解消に向かい前進できるように、今日からまた学校に帰って頑張りたいと思います。

そして、本当に語り合い、仲間とつながっていくことの喜びを少しでも生徒が実感できたならと思いました。

いつかまた、交流学習ができたならと思います。

阿南第一中学校教員

※

前回の参観の時と比べて、意見発表の後で拍手がなくなった分、話し合いが充実していたように思う。

MさんやTくんのしっかりした意見や、親に対する気持ちや、思いやりに感動しました。今年で3回目の全体学習の参観ですが、回を増すごとに、全体学習に取り組む子どもたちの意見が素晴らしいものになっているような気がします。

保護者への参観の手紙の話が出ましたが、2年生の我が息子も、前回、前々回より積極的に親に渡すことができていたようです。「仕事を休める日が半日残っているから、その時参観日に行こうか?」と言ったら、「来て!!」と恥ずかしそうに言いました。子どもたちの学習結果を見て、保護者も成長していくことが、わずかずつでも板野中学校の保護者の部落問題学習向上へとつながるのではないかと思う。マイスカイも、親の手元まで持ってきてくれるようになり、家族で読んでいます。正しい知識を家庭に運んでくれるのは、子どもが持って帰ってくる手紙です。

追伸 同じ参観日をするなら3学期の授業参観より全体学習を! 板野中学校保護者



◇ ◇ これからの日程 ◇ ◇

あかん! 今回も4枚になってしまった。ほんまは他にも原稿あったんやけど、これ以上増えたらだ〜れも読んでくれへんようになるけん(今でも読んでくれてない?), ほの原稿は次号に回しました。いっぱい伝えたいことがあって、ほんまに困ります。

ところで、次号までに3年C組の全体学習がありますが、3年生のみなさん、しっかり資料を読んで、全ての学級で話し合いをしておきましょうね。

また、次号が出てすぐに2年A組も全体学習をすることになりますが、2年生のみなさんも、しっかり学習を深めておきましょうね。



★11月1日(水) 板野町同和教育研究会(板野南小学校)

★11月9日(木) 3年C組3年全体学習

☆11月12日(日) 盲学校文化祭(徳島県立盲学校)

★11月16日(木) 2年A組2年全体学習

☆11月19日(日) 板野養護学校文化祭

★11月25日(土)~27日(月) 全国同和教育研究大会(三重県にて)行ってま〜す!

はじ!!

◎県内各高校の人権・部落問題に関する実状報告!!

もう1カ月も前のことになりますが、板野高校の文化祭についての記事が、徳島新聞に掲載されていました。「真友会」は、毎週土曜日の夜、総合センターに集まっている「板野町高校生友の会」のことで、「愛真会」は、板野高校で活動しているサークルのことで。

実は他の高校にも、人数は少ないのですが、人権や部落問題について

考え、活動しているサークルがあります。将来高校に進んでも、これらの問題についてもっと深く考え、同じ目標に向かって歩いていける仲間として取り組んでいきたい人は、是非とも顔を出してみてください。

今活動している以下の各高校の部員同士は、「同じ中学校だった」「高校でのサークル交流会で知り合った」りして、すごく仲がいいんですよ。そのメンバーは、以前ここに紹介した県奨や全奨、NLAでも一緒になっているようです。

そんな各高校のサークル名を、最後に紹介しておきますね。

	★	★	★	★	★
板野高校	愛真会		阿北高校		解放研リバティ
鳴門第一高校	ヒューマンクラブ		城東高校北島分校		翼会
鳴門高校	部落問題研究部		城ノ内高校		レベラーズ
鳴門工業高校	社会問題研究部		城北高校		部落解放研究会
徳島東工業高校	人権委員会				

▽：板野郡板野町川端の板野高校(出葉秀樹校長、九百八人)の同和・人権を考えるグループが、二十七日の文化祭に「戦争と人権」展Ⅱ写真展Ⅱを開催。部員らは「今年には戦後五十年。戦時中、人権がどのように扱われたか勉強したい」と話している。

△：メイン展示は「沖繩は「沖繩は戦後五十年。戦時中、人権がどのように扱われたか勉強したい」と話している。

▽：板野郡板野町川端の板野高校(出葉秀樹校長、九百八人)の同和・人権を考えるグループが、二十七日の文化祭に「戦争と人権」展Ⅱ写真展Ⅱを開催。部員らは「今年には戦後五十年。戦時中、人権がどのように扱われたか勉強したい」と話している。

△：メイン展示は「沖繩は「沖繩は戦後五十年。戦時中、人権がどのように扱われたか勉強したい」と話している。

△：企画したのは、同高の人権グループ「愛真会」(大森和幸部長、八人)と同和問題学習推進委員(西崎洋一委員)

「戦と戦跡」と題したコーナー。沖繩で戦争で亡くなった死者の数などデータや、修学旅行の感想。ほか徳島大空襲も。